

## 株式会社オプトラン

### 2020年12月期決算説明会（機関投資家・アナリスト向け）QA サマリー

Q1：足元の受注状況はどうか？

A1：昨年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、受注に影響が出ました。受注環境は徐々に好転しつつあり、当社の新型装置の需要が生じてきています。

足元の受注の環境は、3ヶ月前に比べますと好転してきている。例えば、スマートフォンは、カメラモジュールや加飾等で受注の可能性がある。また、監視カメラも受注が改善する兆しがある。IoT関連では、光通信は去年から需要が旺盛であり、それが継続している。LEDは、ミニLEDの受注の動きが出てきている。

Q2：2021年の受注はどの程度見込んでいるのか？

A2：2021年受注計画については、非開示としていますが、2020年より2021年は年間の受注額が大きくなる様に計画をしています。

Q3：2020年営業利益は、会社計画より少し未達になっているが、その理由は？

A3：影響は2点ある。1点目が、為替影響。2点目が、スパッタ装置の売上比率が下がったことです。

Q4：2021年の売上計画は、上期と下期で分けた場合どちらが多いのか？

A4：今期の当社売上計画は、下期の方が多く計上する予定です。

Q5：2021年、販管費の想定はどれくらいか？

A5：販管費は、64億円ぐらい。

Q6：任意の委員会設置はしているのか？

A6：当社は、任意の報酬委員会を設置している。

Q7：社外取締役や女性社外取締役の増員の可能性はあるのか？

A7：社外取締役比率は50%、女性取締役比率は1/6であり、現状充分ではないか。

Q8：2021年の粗利率の前提は？粗利率が上がる計画ではないか？

A8：粗利率が今年に比べて高い理由は、2021年は、新型装置の売上が高くなること。特に、ALDは粗利率も高く、それが計画に織り込まれている。また、2020年は、為替の影響を受けたが、2021年は、元高対策を適切に行う、これがプラスに寄与するのではないか。

Q9：上海に研究開発棟を建設しているが、上海と川越技術センターの今後の棲み分けは？

A9：川越技術センターは、基礎研究を担当し、上海工場では、応用研究を担当している。これをさらに加速させる。2021年からは、ALD装置その他、この数年で開発していた装置が、収穫期に入っているため、それらの応用研究が重要になる。

Q10：2021年の新型装置の売上比率はどれくらいになるのか？

A10：30%以上となる。

Q11：今後、半導体と光学薄膜技術の融合が起こった時に、半導体製造装置メーカーとの資本提携とか買収等の話があった場合どう対応するのか？

A11：技術的には、半導体と光学薄膜が融合する技術的なトレンドはある。資本提携や買収等の話になった際には、社内で十分に対応を検討する。

以上